

## 保健外交を通して見る日本の存在感

コロナウイルス感染症の世界的流行によって国々は分断され、世界は大きく変わってしまいました。フィリピンを含めアジアのいくつかの国々では、感染症の拡大防止や経済の回復など、難しい問題に直面しています。日本はアジアの先進国として、コロナ禍においてもこれらの国々に対して医療体制強化や経済再生支援等の協力を続

けており、新たな国際保健のあり方が作り上げられていく中で、多くの国々から日本のリーダーシップに期待が寄せられています。外交の最前線の舞台となる大使館では、保健分野の外交を通じて、日本が世界に果たす役割がますます大きくなっていることを強く感じます。



在フィリピン大使館一等書記官  
岡田 岳大  
OKADA Takeo

## 外交官として世界の保健課題に取り組む

一般的には、国際保健の舞台はジュネーブという印象が強いかもしれませんが、しかし実はニューヨークでも、日本が主導しているユニバーサル・ヘルズ・カバレッジ(UHC)をはじめ、エイズ、結核、非感染症、薬剤耐性などの議題が、首脳レベルの会議で取り上げられています。

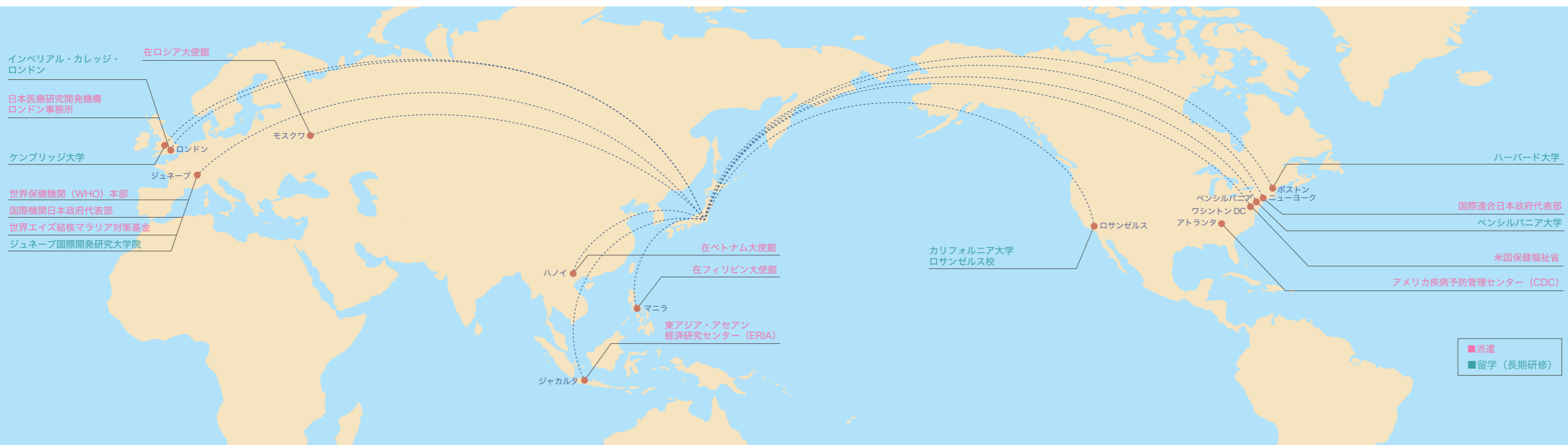
現在はほとんどの交渉がビデオ会議で行われており、外交官の「対面で交渉を行う」イメージとはかなり違うものとなっています。そんな状況でも、COVID-19以後の世界を日本の知見や技術等を背景に、保健外交を通じてより良いものにするべく各国の外交官や国連機関の職員と共に努力しています。



国連日本政府代表部参事官  
喜多 洋輔  
KITA Yosuke

## 世界で活躍する医系技官

医系技官は、国内行政はもちろんのこと、世界各地でその活躍が求められています。保健医療政策や公衆衛生分野の課題は、一見、地域特有のものでも、世界共通の課題として捉え直すこともできます。我が国の知見を活かせる場は数多く、国際機関で各国代表と交渉、提案をしたり、留学により専門知識のさらなる習得を図っています。日本と世界をつなぐ、その活躍の場はますます広がっています。



## 世界の保健医療をリードする米国の厚生省

米国ワシントンD.C.にある保健福祉省(HHS)は、疾病予防管理センター(CDC)、国立衛生研究所(NIH)、食品医薬局(FDA)などの著名な組織を擁する、日本の厚生労働省に相当する組織です。日本の厚生労働省の約6倍の人員を擁しており、すべてが桁違いです。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機

に健康危機管理のあり方が注目される中、同時多発テロ(9.11)など歴史的な事件を経て整備された米国の危機管理体制から学ぶべきことは大変多いと感じます。日本の今後の政策に生かせるよう、法律、予算、組織、人材育成など様々な観点から、日々調査研究に取り組んでいます。



人事院短期在外研究員(米国保健福祉省)  
矢野 好輝  
YANO Yoshiteru



人事院長期在外研究員(ハーバード公衆衛生大学院)  
吉川 裕貴  
YOSHIKAWA Yuki

## 現在進行系で構築されていくエビデンスを学ぶ

入省後、医師偏在対策、診療報酬改定、予防接種と複数の分野を経験する中で、自分に不足している知識や経験が具体的に増えてきました。このギャップを埋めるため、現在は、私はハーバード公衆衛生大学院で保健医療政策を学んでいます。実務経験後に大学院で系統的に学ぶ日々は、研修医時代、診察後に教科書を読み直していた時間に似ていて、どこか

懐かしい思いです。コロナ禍の米国では、現在進行系で大量のエビデンスが創出されており、教授や同級生と行う熱い議論から、公衆衛生という学問の進化を肌で感じています。留学で新たな武器を手に入れ、日本の保健医療政策に貢献できるのが今から楽しみです。

## 保健外交を通して見る日本の存在感

コロナウイルス感染症の世界的流行によって国々は分断され、世界は大きく変わってしまいました。フィリピンを含めアジアのいくつかの国々では、感染症の拡大防止や経済の回復など、難しい問題に直面しています。

日本はアジアの先進国として、コロナ禍においてもこれらの国々に対して医療体制強化や経済再生支援等の協力を続

けており、新たな国際保健のあり方が作り上げられていく中で、多くの国々から日本のリーダーシップに期待が寄せられています。

外交の最前線の舞台となる大使館では、保健分野の外交を通じて、日本が世界に果たす役割がますます大きくなっていることを強く感じます。

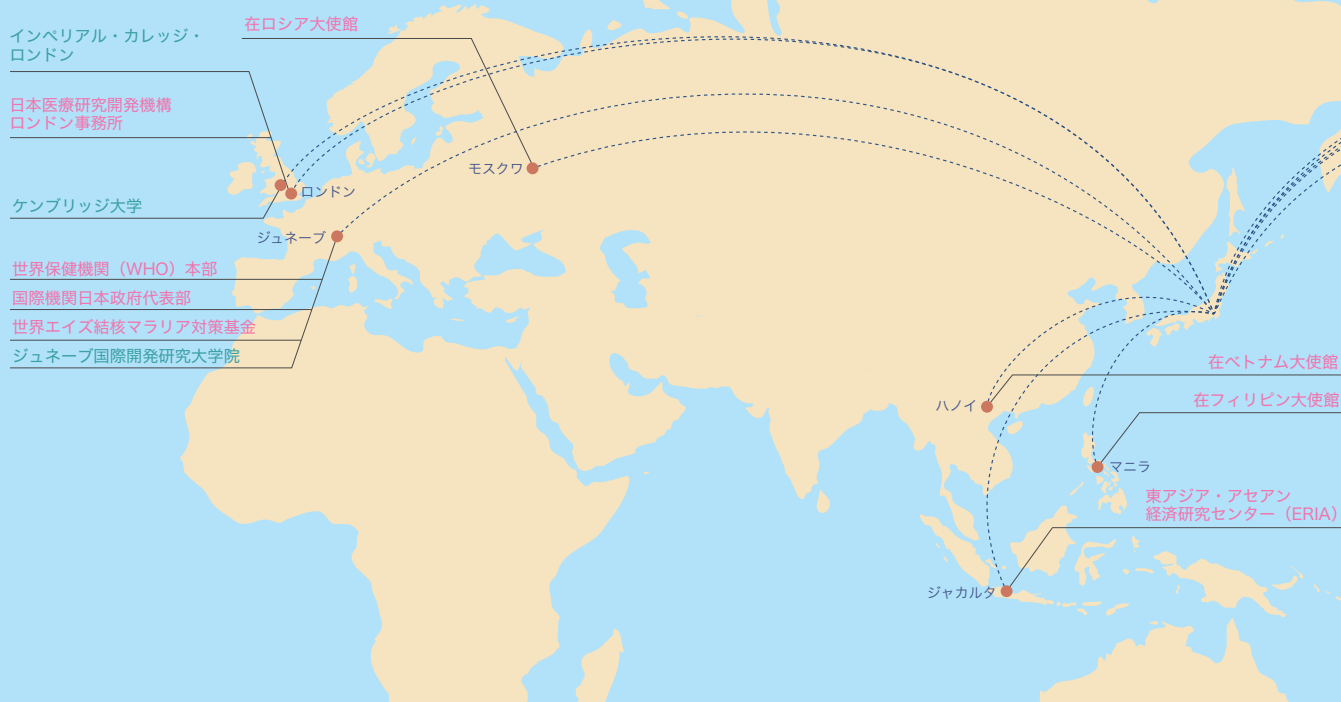


在フィリピン大使館一等書記官

岡田 岳大

OKADA Takeo

## 世界で活躍する医系技官



人事院短期在外研究員(米国保健福祉省)

矢野 好輝

YANO Yoshiteru

## 世界の保健医療をリードする米国の厚生省

米国ワシントンD.C.にある保健福祉省(HHS)は、疾病予防管理センター(CDC)、国立衛生研究所(NIH)、食品医薬局(FDA)などの著名な組織を擁する、日本の厚生労働省に相当する組織です。日本の厚生労働省の約6倍の人員を擁しており、すべてが桁違いです。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機

に健康危機管理のあり方が注目される中、同時多発テロ(9.11)など歴史的な事件を経て整備された米国の危機管理体制から学ぶべきことは大変多いと感じます。日本の今後の政策に生かせるよう、法律、予算、組織、人材育成など様々な観点から、日々調査研究に取り組んでいます。

## 外交官として世界の保健課題に取り組む

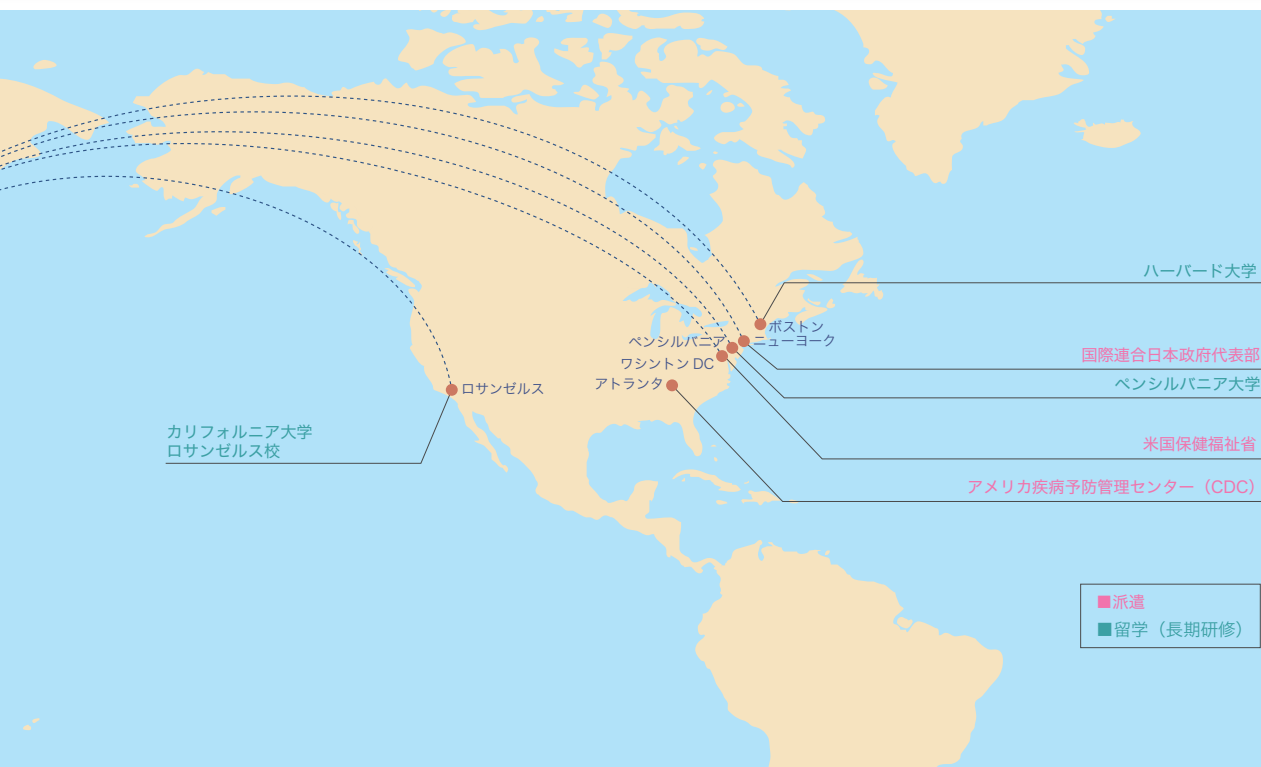
一般的には、国際保健の舞台はジュネーブという印象が強いかもしれませんが。しかし実はニューヨークでも、日本が主導しているユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)をはじめ、エイズ、結核、非感染症、薬剤耐性などの議題が、首脳レベルの会議で取り上げられています。

現在はほとんどの交渉がビデオ会議で行われており、外交官の「対面で交渉を行う」イメージとはかなり違うものとなっています。そんな状況でも、COVID-19以後の世界を日本の知見や技術等を背景に、保健外交を通じてより良いものにするべく各国の外交官や国連機関の職員と共に努力しています。



国連日本政府代表部参事官  
喜多 洋輔  
KITA Yosuke

医系技官は、国内行政はもちろんのこと、世界各地でその活躍が求められています。保健医療政策や公衆衛生分野の課題は、一見、地域特有のものでも、世界共通の課題として捉え直すこともできます。我が国の知見を活かせる場は数多く、国際機関で各国代表と交渉、提案をしたり、留学により専門知識のさらなる習得を図っています。日本と世界をつなぐ、その活躍の場はますます広がっています。



人事院長期在外研究員  
(ハーバード公衆衛生大学院)  
吉川 裕貴  
YOSHIKAWA Yuki

## 現在進行系で構築されていくエビデンスを学ぶ

入省後、医師偏在対策、診療報酬改定、予防接種と複数の分野を経験する中で、自分に不足している知識や経験が具体的に見えてきました。このギャップを埋めるため、現在は、私はハーバード公衆衛生大学院で保健医療政策を学んでいます。実務経験後に大学院で系統的に学ぶ日々は、研修医時代、診察後に教科書を読み直していた時間に似ていて、どこか

懐かしい思いです。

コロナ禍の米国では、現在進行系で大量のエビデンスが創出されており、教授や同級生と行う熱い議論から、公衆衛生という学問の進化を肌で感じています。留学で新たな武器を手に入れ、日本の保健医療政策に貢献できるのが今から楽しみです。